



選ばれるまち 成田新時代



発行：成田新時代をつくる会 成田市はなのき台3-3-2
発行日：2022年11月

雨宮しんご公式ウェブサイト
<https://ama-shin.net/>



雨宮しんご

検索

雨宮しんご政策集

ごあいさつ	3
プロフィール	4
政策	6
主要政策	6
3つの基本姿勢	8
5つの取り組み方針	14
応援の声	56
成田新時代へ	58



選ばれるまち 成田新時代

市民の皆さんの声をカタチ（政策）に

雨宮しんご政策集「選ばれるまち 成田新時代」をお手にとって頂き、ありがとうございます。

成田市政のリーダーへの挑戦を決意してから、市内各地域でのタウンミーティングなどを通じて多くの市民の皆さんの声を伺ってきました。そうして集まった声で出来たのが、この政策集です。

寄り添い、ともに創る市政

市民の皆さんに寄り添い、そして、ともに創る。それがわたしの政治家としての信念であり原点です。わたしは、これまでに500万枚以上のチラシを配ってきました。政治への不信が高まり、お世辞にも市政での投票率は高いとはいえない状況です。この状況を変えるには、可能な限り多くの市民の皆さんに、市政の現状を直接お伝えし、ともに考え、そして、ともに新しい成田市を創っていくことだと信じ、行動してきました。

ともに、新しい成田の未来づくりへ

市民の皆さんの声で出来たこの政策集は、まさに、わたしの信念と原点の結晶です。市民のための政治を取り戻し、新しい成田の未来づくりを進める。『選ばれるまち 成田新時代』へ向けて、ぜひ、ともに大好きな成田市を創っていきましょう。



雨宮しんごのプロフィール

- 昭和53年(1978年)10月31日生・44歳
- 血液型 B型(さそり座)
- 家族 妻と子ども2人・犬2匹
- 0歳からの成田っ子
- はくと幼稚園・成田市立吾妻小学校・吾妻中学校
- 平成3年「少年の翼に入団」中国国際交流
- 千葉県立富里高等学校/高校時代ニュージーランド
Papakura High Schoolへ1年間留学
- 高千穂商科大学卒業
- 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了
(公共政策修士)
- 日本サーフィン連盟公認インストラクター
- 趣味は料理・家庭菜園・サーフィン

4 雨宮しんごのプロフィール



- 平成14年 予備校講師(現代文・英文法)
- 平成19年 成田市議会議員(初当選トップ当選)
- 平成23年 成田市議会議員(2期連続トップ当選)
- 平成27年 成田市議会議員(3期連続トップ当選)
- 平成31年 成田市議会議員(4期連続トップ当選)
- 令和3年 第41代成田市議会議員長



- 成田商工会議所青年部 会長
 - 成田市立吾妻中学校PTA 会長
 - 千葉県立富里高等学校同窓会 会長
 - 成田市PTA連絡協議会 理事
 - 関東若手市議会議員の会 会長
 - 印旛管内市議会正副議長連絡協議会 会長
 - 千葉県北総地区市議会正副議長会 会長
 - 成田空港周辺市町議会連絡協議会 相談役
 - 成田青年会議所 OB
 - 自民党成田市支部 青年部長
- ※歴任を含む





主要政策

骨太な高齢者・子育て向け支援、市民のお役に立てる市役所作りを進め、「**選ばれるまち成田**」を実現します

1

高齢者支援：タクシー料金助成券の配布

免許返納などにより移動手段を失った**高齢者の方々向けにタクシー料金助成券配布**制度を新設し、ご本人とご家族の負担軽減を図ります

2

子育て世代支援：給食費無償化／オーガニック給食の提供

市内小中学校の給食費無償化をすみやかに実施し家庭の負担軽減を図るとともに、子どもたちに安心安全なオーガニック給食を提供します

3

公共施設整備：旧東小学校跡地パークゴルフ場整備凍結

21億円という突出した事業費となっている旧東小学校跡地パークゴルフ場・複合施設整備事業を凍結

4

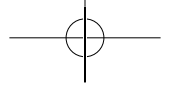
市長への覚悟：市長多選禁止条例／市長退職金（約1500万円）をゼロに

お金ではなく、**真に市民のための市政実現を目指す人材が市長を目指すよう**、市長多選禁止条例を制定し、市長の退職金はゼロにします

5

行政改革：副市長2人制の復活

多様な方々に開かれた市政の実現や成田空港の機能強化に向けた**国との関係構築**を目指し、現市政が取りやめた**国からの副市長登用を再開**します



1

3つの基本姿勢

若さを活かし、“現場主義”・“対話”による「開かれた市政」の実現



じっくりと時間をかけて市民の皆さんと一緒に成田市を前に進めていきたい。この想いは市議会議員に初当選した15年前から変わっていません。議会毎に出前市政報告会で市内を走り回り、市政報告会も毎年実施(参加者150名程度)してきました。

成田市では多様な人が、さまざまなまちづくりの活動を実践しています。十人十色で、個性あふれる人々が、活動を担っていただいています。それがうまく活かされているとは思えません。市民の皆さんが、成田市の「いま」を知り、一緒に考え、一緒に未来に向かって行動していく。そうした機運を生み出していくためには、動くリーダーが不可欠です。

市民が主役のまちづくりを目指し、その輪をさらに広げ、深く根付かせていくために、「とことん現場主義」で「対話」に徹することで、市長はじめ市職員一人ひとりが皆さんの暮らしの現場と向き合う市政を実現します。

具体的な
取り組み

- ・すべての地区において「市長と語ろう会」、「ランチミーティング」、「オンライン対話会」「SNS対話」など定期的に開催するなど、市民との対話を重視した市政運営を行います。
- ・各種の行政計画を作る際に開かれる策定委員会のメンバーの半数を市民枠にするなど、市民の皆さんが市政運営に積極的に参加できる機会を提供します。
- ・情報公開を徹底し、市民に開かれた市政運営を行います。





2 3つの基本姿勢

“多様な人材”が集い育つ、「骨太な組織」づくり

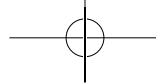
国家の一大プロジェクトである成田国際空港のさらなる機能強化のためには、国との連携が不可欠です。現市政が取りやめた**国からの副市長の登用を再開**します。成田市のポテンシャルを最大化するためには行政機能を引き上げていくことが不可欠です。そのために、これまで培ってきた人脈をフル活用し、トップ企業との連携によるスマートシティ構想など最先端のまちづくりに取り組むため、**副市長二人体制の復活、専門職(DX(デジタルトランスフォーメーション)、規制緩和、まちづくり、官民連携など)の民間人登用を進める他、まちづくり全体の戦略策定や重点施策の推進主体となる新たな組織**を設置します。

また、**国や県との綿密な連携を探り、政策を推進する成田市東京行政庁**(成田市の東京における出先機関として、国との連携を担う組織)**創設**や、**成田国際空港会社などとの官民人事交流**を促進することで、組織の活性化と人材の育成を図ります。さらに、**複線型人事制度を推進することでスペシャリストを育成**するほか、**女性力を活かした公平な人事制度や人事異動**を徹底し、適材適所の人事配置を実施します。加えて、10年一時代を念頭に、首長にも多選制限を導入し、どんなに長くても連続3期までに限定する**市長多選禁止条例**を制定し市長の退職金(約1500万円)はゼロにします。

具体的な取り組み

- ・副市長二人体制の復活(国からの登用再開)
- ・専門職の民間人登用
- ・官民人事交流の促進による人財育成
- ・成田市東京行政庁(成田市の東京における出先機関として、国との連携を担う組織)創設
- ・複線型人事制度によるスペシャリスト育成・女性の登用
- ・市長直轄の危機管理・防災組織として部長級の危機管理監を配置し、災害に迅速対応
- ・まちづくり全体の戦略策定や重点施策の推進主体となる新たな組織(政策イノベーション部(仮称))の設置
- ・多選禁止条例の制定／市長の退職金(約1500万円)はゼロに





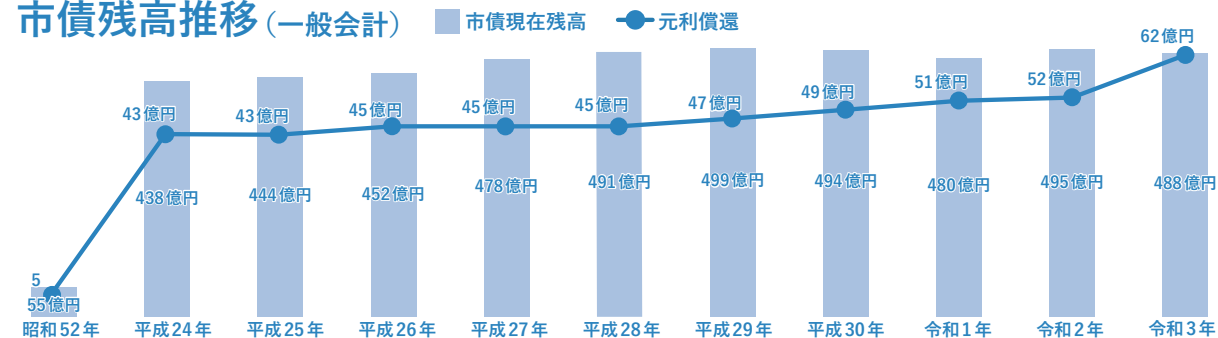
3 3つの基本姿勢

「財政健全化」による“将来世代への過度な負担の改め”

超高齢化社会により扶助費が増大しており、義務的経費（法令や性質上、支出が義務付けられており裁量的に減額できない経費）は増加していくことが見込まれます。

さらには、高度経済成長期に建設された公共施設の老朽化により、今後は**更新費用の増加**も予想されます。

市債残高推移（一般会計）



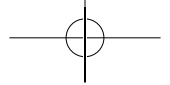
一方で、大型事業は継続されているため、子どもたちへのツケ（借金）である市債の残高は490億円にものぼり、「将来負担費比率」はこの15年間で33%から109%（2024年）へと上昇しています。

市民要望に応えることは「市政」の根幹ですが、それを為すには柔軟なバランス感覚が必要です。過度な負担を将来世代に強いる政策を改め、将来負担比率を低減させていきます。

具体的な取り組み

- ・21億円という突出した事業費となっている旧東小学校跡地パークゴルフ場・複合施設整備事業を見直し、成田全市民にとって真に必要な設備のみの整備を実施し、事業費の大幅削減と次世代への負債額を減額させます。
- ・住民目線で全ての行政手続きの不便・不満・無駄を洗い出し、住民には見えない市役所内の全ての業務についても全件調査を実施し、業務効率化を目指します。





1

5つの取り組み方針

子育て世代・高齢者に「選ばれるまち成田」

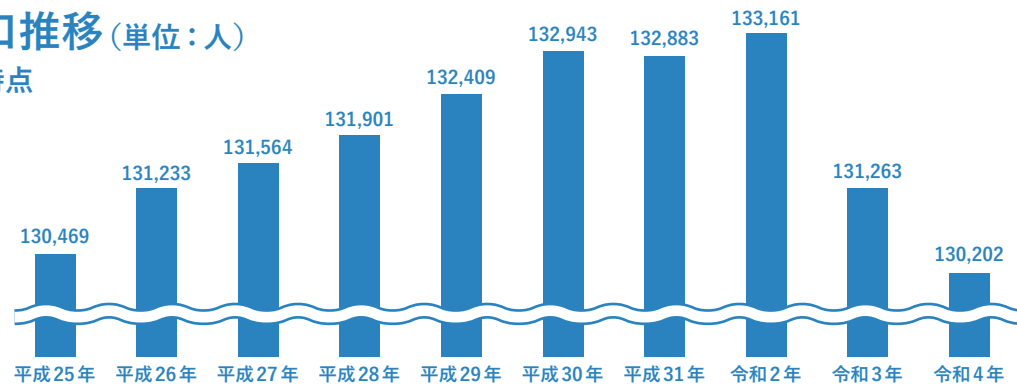


はじめに

成田市は、この5年間で人口が約3000人減少しました。また、昨年の転出人口は県内17市の中でワースト2位(21年は1280人の転出超過)と深刻な状況で、中でも子育て世代の流出が顕著です。

成田市人口推移(単位:人)

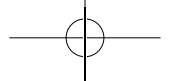
※隔年3月末時点



雨宮しんごは、「人口増加」に向けて、減少する子育て世代や、新たな転入者を迎え入れる**住宅供給支援**、それに**UR都市再生機構の「団地再生」**を進めます。また、高齢者や子どもの居場所づくりのため、**長年手付かずのNT赤坂センター地区の再開発**を推進します。

子育て世代の人たちが安心して未来を語り、高齢者の方々が充実した福祉を実感できるまち、市民に寄り添った成田新時代をつくります。





①転出超過を食い止める、住環境の整備とスマートシティ

前出の通りわずか5年間で成田市から約3000人も人口が減少してしまいました。選べないまち「成田」になっています。転出人口の多くは25歳～39歳までの働き盛りの子育て世帯であり、0歳～4歳児も流出が増加しているなど次世代を担う層の流出がとまりません。

転出超過自治体となってしまった原因は、成田国際空港という産業資源を有効活用できていなかったことの証左であり、人を惹きつける魅力に欠けている都市であることの現れです。さらに、転出人口は県内自治体平均と比較してもかなり多く、このまま減少が加速度的に進行すれば、生活利便性の低下や地域の魅力低下といった悪循環が生じ、人口減少がさらに加速しかねません。



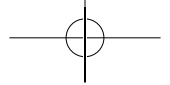
転出抑制と移住促進の両面からの施策を展開し、子育て支援の拡充による出生率向上をはじめ、首都圏からの移住やU/Iターンを促進することで、人口減少対策を図ります。

動き出す吉倉地区のまちづくりを推進していくと共に、空港開港に合わせて建設されたニュータウン地区のUR都市機構や県営住宅の再整備に向けた交渉を進めるほか、15年以上無対策であった「赤坂センター地区複合施設整備」を具体化させるなど、子どもから高齢者といったあらゆる世代が安心して住み続けやすい住環境の再整備を進めることで定住化を促進していきます。その際、これらの大前提として、開発が制限される市街化調整区域内での住宅整備や、市街化調整区域から（住宅開発等がより柔軟に実施出来る）市街化区域への編入に必要となる、まちづくりに関する計画の策定や実行を、千葉県とも連携しつつ、迅速に進めていきます。

また、新型コロナウイルス感染症を契機としたデジタル化や、AI、IoTなどの技術開発の進展を的確に捉え、これらの技術をまちづくりに積極的に取り入れることで、市民生活の質、都市活動の効率性向上を図るなど、スマートシティの取り組みを官民連携で推進していきます。

具体的な取り組み

- ・若年世代の住宅供給支援を行います。
- ・転出超過の実態を成分分析し、世代、仕事、ライフスタイル、医療・福祉、教育、都市、テクノロジー、観光といった政策ターゲットを明確にすることで政策効果の高い施策を強化していきます。



- ・長年手つかず状態の赤坂センター地区複合施設整備を強力に推進します。
- ・同施設の整備においては、公園に民間活力を導入してカフェやBBQ、アスレチック、トレーラハウスを使ったキャンプホテルなど、にぎわいと交流をさらに創出していきます。
- ・その際、保健福祉館、赤坂公園、市立図書館、中央公民館までを一体とした計画に改め、利便性と回遊性を高めた、市民の憩いの場として親しまれる環境づくりを進めます。
- ・ニュータウン地区のUR都市機構や県営住宅の再整備を促進します。
- ・成田空港の更なる機能強化に伴う新たな開発需要に対応するため、吉倉地区周辺において、都市機能や住環境の整備を主体とした新たなまちづくりの取り組みを進めます。また、土地利用や用途指定の見直しも迅速に進めます。
- ・自動運転、ドローン、医療のIT化などスマートシティの実装を図ります。
- ・AIを活用した保育所入所システムを導入することで入所選考における時間を短縮し、削減された時間を活用してよりきめ細やかな住民サービスを促します。
- ・地域のために何かを始めたいという市民や団体をしっかりと応援するために、新たな市民団体への補助金給付などを行います。その際に、外部有識者を入れた「補助金在り方検討会」を立ち上げるほか、審査基準を共通化するなど適切な運営を図ります。

②「産み育てるなら成田!」と思える子育て支援の充実

学校給食費の無償化をはじめとする保護者の負担軽減、妊娠・出産・育児の切れ目のない支援、保育園機能の強化、放課後の居場所づくり、子どもの貧困・児童虐待・安全対策等、全方位的な子育て支援の充実を通じて、「生み育てるなら成田!」というブランドを確立します。

具体的な取り組み

保護者の負担軽減

- ・学校給食費の無償化、学校用品の負担軽減を千葉県と連携して実施
- ・各学校で使用する副教材の費用への助成
- ・眼鏡をはじめ、医療器具購入経費補助の額や対象年齢を拡充

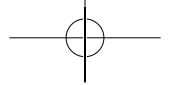
妊娠・出産・育児支援

- ・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援として、現行の子育て世代包括支援センターを発展させ、相談から申請まで庁内横断的に行える体制を整備

保育園等の機能強化

- ・地域ニーズに応じた施設整備・改修や保育士の処遇改善など待機児童対策を推進





- ・幼児教育の負担軽減をはじめ、アプローチカリキュラム[※]を策定
- ・私立保育園や私立幼稚園に対する各種補助金を拡充
- ・病児・病後児保育の拡充など多様な保育ニーズに合わせた子育て環境を整備

放課後の居場所づくり

- ・児童ホーム整備事業計画を見直し、定員数の見直しを図るとともに、増設・新設の必要があればただちにこれを実行し、待機児童を無くすと共に、学年制限を緩和
- ・全児童への放課後対策や放課後学習の仕組みづくりを実施
- ・プレーパークの常設化により子どもたちがのびのびと遊び、育てる環境を実現

子どもの貧困や児童虐待対応・安心安全の確保

- ・「子どもの貧困対策計画」を策定、子どもの貧困や児童虐待対策を強化
- ・(仮)子ども食堂運営支援補助金を創設し実施団体への支援や子ども食堂開設相談窓口を設置、子ども食堂ネットワーク会議を開催するなど子ども食堂の支援を実施
- ・子ども見守りシステムの導入など、児童の位置情報を保護者が確認できるステムを導入
- ・安心安全なオーガニック給食の提供を推進

※就学前の幼児がスムーズに小学校教育や学習に適応できるようにするとともに、幼児期の学びを小学校教育につなげるために作成する5歳児後半のカリキュラム

③健康と生きがいづくりで、しっかり届く福祉の推進

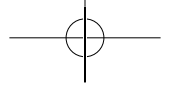
予防医療の強化などによる健康寿命の延伸や、何歳になってもしっかり届く福祉の推進により、健康で生きがいを実感できる市政を実現します。

発達障害のあるお子さんと保護者の方々への支援、障害者一人ひとりに寄り添う体制整備、拠点的福祉避難所の整備等を通じて、誰もが自分らしく学び、生きられる環境づくりを進めます。

具体的な取り組み

介護・福祉

- ・免許返納などにより移動手段を失った高齢者の方々向けにタクシー料金助成券配布制度を新設し、ご本人とご家族の負担軽減を図ります。
- ・民間のスポーツクラブ、フィットネスなどとの連携を通じ、身近な地域で運動や趣味の活動ができる「高齢者憩いの広場」の整備を市内全域で推進します。
- ・新たに胃がんリスク検査(ピロリ菌検査)を導入し、市民の将来の胃がんリスクを低減させます。
- ・重度な要介護状態になっても安心して暮らし続けられる地域社会の実現に向けて、医療・介護の連携体制の構築を推進します。
- ・高齢者の補聴器購入費への支援を進めます。



・高齢者のペット飼育による生きがいづくり、ペットの飼育支援などペットの共生を進めます。

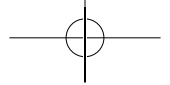
障害のある方向けの支援

- ・発達障害のある子どもの早期発見、早期ケア、保護者の相談体制の充実を図ります。
- ・子どもと保護者への支援が切れ目なく受けられる子ども発達支援センターを拡充します。
- ・障害者一人ひとりに寄り添う相談体制の整備、重度・特別な配慮を必要とする障害のある方へのサービス提供体制を進めます。



高齢者向けタクシー料金助成券配布

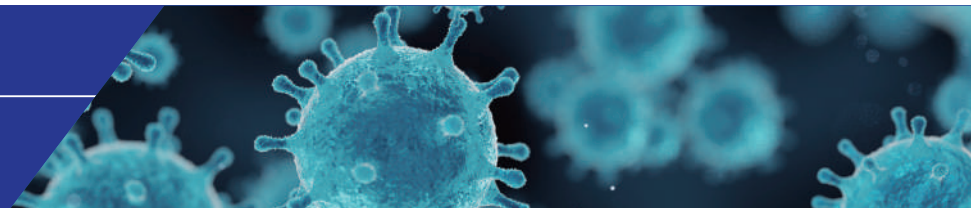




2

5つの取り組み方針

命と健康の安心 医療体制の充実により「選ばれるまち成田」



はじめに

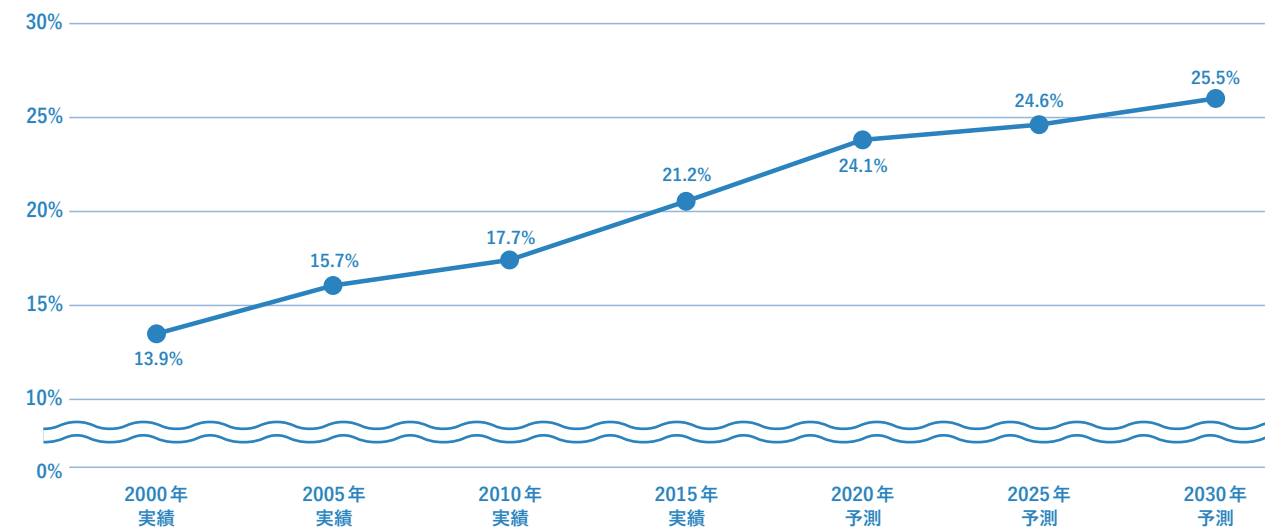
国際空港を擁する成田市は、昨今の新型コロナウイルス感染症やサル痘など様々なウイルスに脅かされやすい地域です。

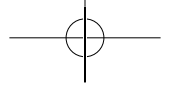
雨宮しんごは、国内外の大規模災害や感染症など緊急時に迅速に市民の命と健康を守れるよう、検疫体制を強化すると共に各所と連携した保健所機能を有する感染症に強いまちづくりを進めます。

また、団塊の世代が75歳以上に達する2025年問題が目前です。成田市の健康寿命が全国平均を下回っていることから、地域包括ケア※の充実や認知症への総合的支援など誰ひとり置き去りにしない、きめ細やかな福祉サービスに邁進します。

※「医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した生活を続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される」という考え方

成田市の高齢化率の推移





①世界の表玄関としての感染症対策を強化

国内外の**大規模災害や感染症にハード・ソフトで迅速に対応し**、市民の生命を最優先で守るため、**空港検疫の強化をはじめ、市内の大型病院との連携による保健所機能や災害拠点病院・感染症指定機関機能を有する体制の構築**など、国際空港都市に求められる感染症に強いまちづくりを推進します。

具体的な取り組み

- ・国・県・本市三者合同による空港検疫の強化に努めます。
- ・成田赤十字病院・国際医療福祉大学成田病院との連携による保健所機能や災害拠点病院（大規模災害対応型の救急外来）・感染症指定機関（パンデミック対応型の救命救急棟）などの機能を有する体制を構築します。



成田赤十字病院



国際医療福祉大学成田病院

②安心して暮らせる医療・介護の実現

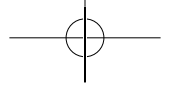
地域の実情に合わせた**地域包括ケアシステムの深化・推進**、給付や負担の在り方を再考し、地域社会全体の見守りをはじめとする「**支え合い**」や「**助け合い**」、**インフォーマルなサービスの充実**を図ります。

この他にも、医師会や医師団をはじめとする医療関係団体や病院など、**医療の最前線で従事されている皆さんとの綿密な連携**の上で、スピード感のある保健医療体制を推進します。

具体的な取り組み

- ・地域包括ケアシステムの深化・推進
- ・医療・介護に関する給付や負担の在り方の見直し
- ・医師会や医師団をはじめとする医療関係団体や病院との連携強化
- ・認知症への取り組みを総合的に推進
- ・在宅の認知症患者などが起こす事故への損害賠償について、市が保険料を負担して保険に加入し、万一の場合に本人・家族を救う認知症事故救済制度の導入を検討





③災害に強い安全なまちづくり

誰もが安心して暮らすためには、災害に強いまちとなることが不可欠です。過去の災害を教訓に、自主防災組織や避難所運営委員会といった市民の皆さんの「自助」「共助」を支援しながら、市の役割である「公助」の要となる消防や救急医療の設備や技術の高度化など、防災力向上を図るための体制づくりを推進します。

具体的な取り組み

- ・消防団拠点施設整備計画を見直し、整備拠点の増加および整備を加速します。
- ・耐震性貯水槽や消火栓整備計画を見直し、設置箇所増加や設置を加速します。
- ・急傾斜地や崖地整備計画を見直し、整備対策箇所の追加や整備を加速します。

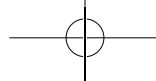


④交通安全、防犯対策による安心安全なまちづくり

犯罪抑止や事件の早期解決を目的とした道路や公園への「安全・安心見守りカメラ」の整備を推進します。

また、通学路を最優先に信号機やガードレール、防犯灯の設置など地域・学校・保護者の要望に対し、迅速な交通安全対策が実施できるよう十分な予算確保を行い、通学路や生活道路の安全確保に向けた対策を講じます。

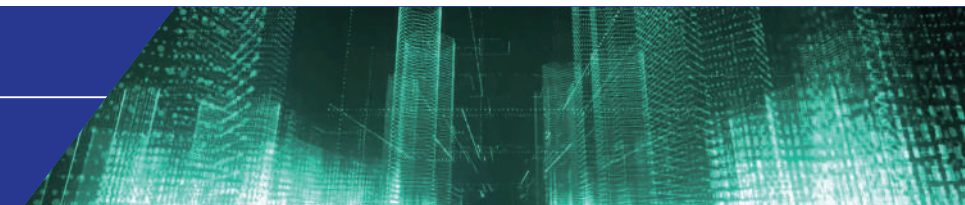




3

5つの取り組み方針

国際教育の充実により、国内外から「選ばれるまち成田」



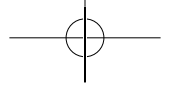
はじめに

国際空港都市である「NARITA」は、先んじて国際教育や国際交流、多文化共生社会を推進していくべきです。

雨宮しんごは、学生時代のニュージーランド留学や予備校講師の経験を活かし、国際都市にふさわしい外国語教育の充実を図ります。 インターナショナルスクールの設置検討など、国際社会で活躍できる人材育成に尽力します。

また、海外企業はもとより外国籍社員を抱える企業であっても、成田市に事業拠点を移しやすい環境を整え、わたしが先頭に立って国内外のグローバル企業の誘致に全力を傾けます。





①国際都市成田の実現

「国際都市成田」を名実ともに浸透させるため、**外国語教育課程の見直し**をはじめ、**インターナショナルスクールの設置誘致の推進**など、国際都市にふさわしい**インターナショナル教育を推進**します。

また、グローバル人材の育成には**多文化共生に向けた教育**が不可欠なことから、教育現場にも積極的に取り入れていきます。

外国語スキルはもちろん高い接客スキルも重ね持つ航空会社社員を、**外国語と対人スキルを学ぶ非常勤講師**として市が採用し、各学校でそのスキルを児童生徒が学ぶことができる環境を整備します。

具体的な取り組み

- ・外国語教育課程の見直し
- ・インターナショナルスクールの設置誘致の推進
- ・多文化共生教育の推進
- ・外国語と対人スキルを学べる非常勤講師の採用



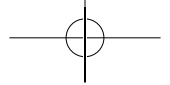
②それぞれの個性に応じた教育改革の推進

子ども、ひとりひとりを大切にする教育、特に貧困の連鎖を断ち切る教育支援の充実を図ります。

具体的な取り組み

- ・貧困の連鎖を断ち切るために、生活保護世帯の児童への学習支援を実施します。
- ・ひとり一人が将来の夢を具体的に考えることができる小・中学校での体系的なキャリア教育を実施します。
- ・市の各種計画策定において子ども・若者の参画を推進し、様々な経験を積むことができるまち、子ども・若者の意見が反映されるまちづくりを進めます。





4

5つの取り組み方針

制度の改善や規制緩和で企業から「選ばれるまち成田」

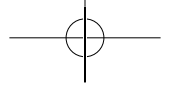


はじめに

成田市の**都市開発は停滞した状態**が続いています。進出を望む企業に提供する**工業団地的な土地の在庫がありません**。印西市や白井市は10年後を見据えた企業誘致を展開し、グッドマンやグーグルなどの大型企業が続々と進出しています。

雨宮しんごは、**土地利用制度の改善**に果敢に取り組み、**雇用や税収を生み出す経済産業施策**に注力します。**企業展開に最適な大栄・下総・豊住地区への誘致**と並行して、**国家戦略特区による国際物流拠点の集積**を推進します。また、**圏央道や北千葉道路、それにスマートIC、鉄道アクセスの向上**など、**成田空港を核とした「稼ぐことができる、健全で持続可能な自治体」**へと押し上げます。





①成田の国際空港からアジアの成田国際空港に！

成田国際空港開港の年に生まれたわたしは、空港政策をライフワークに議会活動に邁進してきました。アジア主要空港においては新設滑走路の整備など、大規模な空港機能拡張が進展しており、日本を取り巻く国際空港間の路線獲得競争は一段と激しさを増しています。

こうした中、このほど発着回数30万回から50万回へのさらなる機能強化が決まり、第三滑走路の整備やB滑走路1000m延伸など、完成すれば空港敷地2300haという世界に比肩する日本最大の国際空港へと生まれ変わります(2028年度)。また、2022年9月には、現在3つの旅客ターミナルを、将来的にひとつのターミナルに集約する「新しい成田空港」構想への着手が発表されました。

機能強化の整備促進による競争力確保とともに、2030年に外国人旅行者を年間6000万人とする政府目標の必達に向けて各所との連携強化を図ります。

こうした機能強化の推進は、ひとえに騒音地域の住民の皆さんのご理解とご協力によって成し遂げられるものです。引き続き、騒音地域住民の皆さんの安心・安全を守ることはもちろん、共生と共栄に向けた住民視点の対策や枠組みを検討し、更なる対策を実行していきます。また、構想中のターミナル集約についても、成田市民にとってもメリットのあるものとなるよう(固定資産税等の税金など)、国や空港との連携を進めていきます。



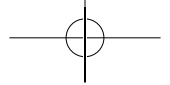
②空港機能強化に先んじた企業立地の促進

2024年度には圏央道(大栄～松尾横芝)の完全開通とインターチェンジが設置され、2028年度には第三滑走路が供用されるなど成田空港進展の筋道が見えてきました。一方で、成田市には工業団地など企業立地提供在庫はゼロです。こうした中、印西市や白井市は北千葉道路を起点に10年後を見据えた物流施設の誘致を進めています。企業誘致から進出、施設増強、そして雇用創出など、成田市に寄与するには5年以上の期間を要し、空港機能強化に合わせた企業誘致は待ったなしです。

企業立地促進制度の大幅改善、規制緩和、土地利用や用途指定、トップセールスなど、30年後を見据えつつ、スピーディーに対応し、雇用や税金を生み出す積極的な経済産業施策を展開します。

具体的な取り組み

- ・空港機能強化を見据えた専門部署を創設することで市をあげてまちづくりを推進
- ・新設される大栄インターチェンジ周辺に市場調査手法を活用した開発を促進
- ・調整区域での排水整備費用の補助など、企業立地促進制度の改善を推進
- ・特区制度をフル活用し、農振解除や農地転用を迅速化
- ・土地利用や用途指定の迅速な見直し
- ・騒音地区の適正管理・活用組織を新設



③国家戦略特区の取り組みと、未来への投資

空港機能強化が推進されるなか、**国際医療福祉大学医学部**と附属病院が開院し、**加工から輸出までをワンストップで行える新生成田市場**が開場しました。まさに、ここからがまちづくりのスタートです。

成田国際空港を核とした新たな産業基盤を構築するため、空港周辺に国家戦略特区として「国際医療学園都市構想」「エアポート都市構想」で提案している自由貿易地域を推進するなど、**空港を核とした産業集積**や**物流拠点施設の誘致**による雇用創出と、**区画整理事業**への支援による**住環境整備**を通じて、新たなまちづくりを進めています。



④空港周辺の交通ネットワーク強化

日本の国際空港から、アジアの成田国際空港として飛躍するためには、羽田と比較して相対的に劣る地理的条件の改善に向けて**成田―東京間のアクセス向上が不可欠**です。

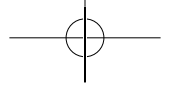
鉄道については、**成田国際空港までのJR線や京成線の単線区間の複線化の完成**や**都心直結構想の実現**に向けて粘り強く交渉していきます。また、複線化や東金山をはじめとする周辺地域におけるまちづくり推進（農地転用等）にあわせて、近隣市の成功事例のノウハウを吸収・活用しつつ**土屋駅の設置**に向けて全力で取り組みます。

道路ネットワークについては、国・県との連携による**圏央道、北千葉道路、そして県道成田小見川鹿島港線の4車線化**を推進するなど、空港周辺交通ネットワークを強固にすることで空港機能をさらに高めていきます。



具体的な取り組み

- ・JR線や京成線の単線区間の複線化を働きかけ
- ・鉄道の都心直結に向けた協議を推進
- ・複線化と周辺地域開発の推進にあわせた土屋駅の設置検討



⑤ 活気あふれる農業を推進

6次産業化・法人化

生産・加工・販売を一体的に進める**フードバレー構想(6次産業化)**を実践し、**認定農業者の経営改善**や**法人化**による企業の経営を促進させる他、**企業の農業参入機会の創出**など、国・県の施策と連携することで**競争力ある強い農業**への積極的な取り組みを実施します。

物流機能強化・新たな農業従事者支援

また、**輸出拠点機能を有する新市場を活用した日本の食の物流拠点化**を加速させ、国・県と連携し**新たに農業に従事する人への支援制度**を設けるなど、**若い世代を中心に農業をはじめの人を増やし定着させるための対策**を進めます。そして、価値が高く、**もうかる農業づくりを推進**することで、若い人たちにも魅力のある農業へと発展させていきます。

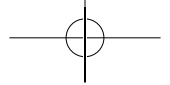
遊休農地の有効活用

成田市内には広大な農地が存在しますが、**耕作放棄地、特に再生可能な荒廃農地の面積は千葉県内で1位**となっており、**2位の自治体の実に1.5倍**と早急な対策が必要です。また、過去5年間を見ても**800haを超える再生可能な荒廃農地が放置**されている状況であり、**毎年の再生利用率はわ**

ずか5～6%程度に留まっています。

そこで、これまであった**人・農地プラン**をより**実行性の高い地域計画**とすることで再生利用面積の拡大を図ります。そのために、市長が代表を務め、県の農地中間管理機構との橋渡し役である**成田市農業センター(成田市出資2億円以上)の認知度の向上と業務の迅速化**を図ることで、**地元農家が利用しやすい体制を確保**し、遊休農地の有効活用に取り組みます。また、人・農地プランの策定を通じて、失われつつある地域の方々のつながりが生まれるよう、市として積極的な支援を実施します。更に、農業委員会が行なっている耕作放棄地解消事業に加えて、**企業提案方式での借受企業の公募**を検討し、農地集積や農業基盤の整備を推進します。





⑥環境対策と経済対策の両立による新しい都市ナリタへ

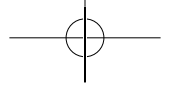
世界でSDGs(Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)が叫ばれ、成田市も「ゼロカーボンシティ」を目指す中で、**環境へ配慮した都市づくりに、積極的に取り組む必要があります。**

一方、これまで環境対策は、経済の発展を制約するものと考えられていました。しかし、科学技術の進展などにより、**環境対策と経済対策は相反するものではなく、両立させることが可能になりつつあります。**コロナ後の時代に向けて、環境にも経済にもやさしい、新たな経済政策への転換を目指します。

具体的な取り組み

- ・再可能エネルギーを活用するため、既存の公共施設に太陽光発電やLED照明を積極的に導入します。
- ・住宅用省エネルギー設備導入に関し、現市政では不十分な設置費用の助成額を拡充します。
- ・既存の公共施設の省エネルギー化を、運営と設備の両面から、より積極的に進めます。
- ・省エネルギー化を図る施設(ZEB、Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)。正味で消費するエネルギーをゼロに)への転換を目指します。
- ・ごみ処理施設などの廃棄物処理施設の効率的・効果的な整備や運営のために、積極的にPPP／PFI方式(官民連携)を導入します。





⑦成田山新勝寺をはじめとする資源を活かした観光都市づくり

新型コロナウイルスは、成田市の観光産業にも大きな影響を与えました。また、ここ10年程の間に、成田山表参道のテナント化が進むなど、新型コロナウイルス発生前から、徐々ににぎわいが失われていました。観光需要が少しずつ回復しつつある今こそ、新たな観光都市づくりを進めることが重要です。

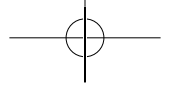
世界に通用する観光のハブとして、「成田山新勝寺」や成田山表参道、宗吾霊堂などの地域資源を効果的に結び付け、「食」の魅力づくりを推進することで、観光客の市内滞在を促していきます。



具体的な取り組み

- ・食と地域資源の連携による新しい観光価値創出に向け民間提案の実現を支援
- ・ハラル(イスラム教徒が食べられるもの)対応など、成長が期待できるアジア市場を意識したインバウンド施策、宿泊施設整備、周辺環境に配慮した民泊などを推進
- ・成田市内に閉じず、観光客目線による近隣自治体と連携した観光ルートの発掘を推進
- ・成田山表参道の交通規制を実施し、観光客へのおもてなしを強化
- ・事業者や諸団体など全市一丸となった観光施策に向け、観光DMO(観光地域づくり)組織の設立検討
- ・成田の特産品をはじめ観光資源を国内外に売り込むため、成田ブランドの確立と発信を強化
- ・市民主導によるお祭りやイベント開催への補助を拡充
- ・市内商店街に設置されるLED街灯への補助を拡充





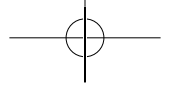
5 5つの取り組み方針 速やかな情報発信、スマートシティの推進で「選ばれるまち成田」

はじめに

テレワーク(在宅勤務)の普及などに伴い、行政サービスのデジタル化や情報発信のオンライン化が急速に広がっています。デジタル世代として、「行かなくて済む市役所」の必要性を強く感じています。

雨宮しんごは、駅頭や街頭などでのチラシ配布だけではなく、デジタル世代として、積極的にSNS(情報発信ツール)を活用しています。リーダー自らの言葉で語ることができ、災害時やパンデミックにおいては速達性を発揮するSNSで情報開示をしていく、「危機に強いリーダー」を目指します。





①発信力強化により、わかりやすい市政実現

新型コロナウイルス感染症、大規模災害などにおけるSNSの活用が注目される中、成田市ではそうした情報発信ツールが依然として有効活用されていません。有事において、リーダー自らがSNSなどを通じて発信することが重要です。

わたしは市長自らの言葉で成田市の「いま」を発信し、市の対策や市民への呼びかけを行っていきます。また、即応性の高いSNSを積極的に活用することで、市内のさまざまな問題について市民に議論を呼びかけ、市民の皆さんとのつながりを身近にしていきます。

市民の皆さんの声に耳を傾けて寄り添い、身近でわかりやすい情報発信を進めていきます。

具体的な取り組み

- ・平時においては、市長自身が即応性の高いSNS（Twitter、Facebook、YouTubeなど）を積極的に活用して、市政の生の情報を自分の言葉で積極的に発信
- ・有事においては、こうしたSNSを積極的に活用し、即応性の高い情報発信を進める

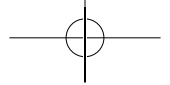


②ひとにやさしいDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

「ウィズコロナ」時代における様々な変化を変革の契機と捉え、ひとにやさしい変革を一気に進めます。DXは、ただデジタル技術（ICT）を導入することではありません。新しい制度や政策、組織の在り方など、ひとに合わせたデジタル技術を活用していくことで、地域課題の解決や社会経済活動の発展を促していくことに真の価値があります。

「新たな日常」の実現に向けて集中的に改革を進めることで、絶え間ない技術革新を捉えながら、市民のみなさんが安心・快適さを実感できる行政運営を実現します。





具体的な取り組み

申請・手続き

- ・オンライン申請が可能な手続は原則オンライン化し、市民の皆さんの来庁時間を短縮

子育て・教育

- ・GIGAスクール構想のさらなる推進を行い、次代を担う人材を育成
- ・オンライン授業、苦手科目補講サービスの推進
- ・保護者へのプッシュ型^{※1}情報発信を推進
- ・オンライン相談の実施や交流機会の提供

高齢者の方々向け(やさしいデジタル)

- ・高齢者の方へのスマートフォン使い方の支援
- ・デジタル化の取り組みの理解促進

医療・健康

- ・スマートフォンやウェアラブル端末^{※2}との連携による健康増進やデータ活用サービスの提供

※1:市民などの利用者が能動的な操作や行動を行わずに、市役所などの提供する側から自動的に行なわれるタイプの技術やサービス
※2:手首や腕、頭などに装着するコンピューターデバイス(装置)

福祉

- ・電子図書館の更なる推進により、利用者の利便性を向上
- ・タブレット端末を活用した多言語対応サービスにより、外国人の方の生活を支援

自治会・町内会

- ・情報提供の利便性の向上と自治組織の負担軽減のため、電子回覧板システムの導入によるタイムリーな情報発信や安否確認を実施

環境

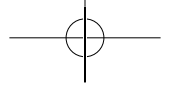
- ・ゴミ出し通知サービスの提供

防災・減災

- ・地域ごとに、市民一人ひとりに合った適切な避難所や避難経路を提示するプッシュ型避難誘導など災害時における最適な情報発信を推進
- ・防災上の重要施設の遠隔監視による災害状況の把握

インフラ・道路

- ・LINEによる道路破損状況を通報出来るシステム(「なりレポ」)を導入



産業振興

- ・次世代X-TECH(クロステック^{※3})ビジネス創出促進
- ・地域デジタル人材確保支援

観光立市

- ・観光客などの移動の利便性を高めるMaaS(Mobility as a Service^{※4})導入を検討
- ・観光関連データの分析により旅行者属性やニーズを把握し、最適なプロモーションと効果測定を実践することで誘客推進
- ・人と地域をつなぐオンライン観光推進

市役所・職員

- ・RPA^{※5}導入及び利活用推進
- ・強靱な情報セキュリティの確立
- ・DX推進に資する人材の確保・育成

※3:既存の業界のビジネスとAIやビッグデータ、IoTなどといった先進的なテクノロジーを結びつけて生まれた新たな製品やサービス

※4:地域住民や旅行者一人一人の単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス

※5:Robotic Process Automation、人がPC上で行う業務をロボットで自動化するテクノロジー





身を切る改革

雨宮しんごは、成田市のリーダーと なるべく、次の2つを「身を切る改革」として打ち出しています。

市長退職金の全額カット

市長退職金は1期4年で1,562万円と極めて高額で、4期16年でなんと6, 248万円になります。成田市の一般職員の退職手当は30年以上働いた定年退職でも1人当たり平均支給額で2, 303万円であり、市長の退職金が異常なまでに高いことがわかります。近年ではDX や子育て政策に取り組む茨城県つくば市が市長退職金ゼロを表明し実現したほか、兵庫県西宮市も同様に市長退職金ゼロを実現しました。千葉県でも市川市が市長報酬の3割カットを条例案とし、厳しい生活に寄り添う姿勢をみせています。

市長多選禁止条例の制定

現職市長は4期16年を務め、5期目に挑戦しようとしています。一方、国の機関である地方分権推進委員会は、第2次勧告で「地方分権の進展に伴い、地方公共団体の首長の権限・責任が相対的に増大する一方、首長選挙における投票率の低さ、無投票再選の多さ、各政党の相乗り傾向の増大は、首長の多選が原因の一端であるとして問題視する向きも多い。このため、首長の選出に制約を加えることの憲法上の可否を十分吟味した上で、地方公共団体の選択により多選の制限を可能とする方策を含めて幅広く検討する」と、多選の問題を地方公共団体に委ねており、実際に連続3期を超える自粛の条例が、神奈川県横浜市や厚木市、藤沢市で成立しています。成田市長の多選はまさに地方分権推進委員会の指摘する問題を産み出しており、市長は3期12年までという市長多選禁止条例の制定を目指します。



私たち現職市長も雨宮しんごさんを応援 しています



いとう友則
香取市長(千葉県)



渡辺美知太郎
那須塩原市長(栃木県)



仲川げん
奈良市長(奈良県)



菅原文仁
戸田市長(埼玉県)



中原恵人
吉川市長(埼玉県)



草地ひろあき
磐田市長(静岡県)



清山知憲
宮崎市長(宮崎県)



坂村哲也
下野市長(栃木県)





成田新時代へ

12年ぶりに、市のリーダーを決める時が来ました。
ですが、半分以上の有権者が投票に行かなくなっているのが成田市の実情です。
多くの人が「政治がズレていると感じている」からだと思っています。

政治を動かしているのはわたしたちが選挙で選んだ政治家なのに。

このままでは、政治家は「市民の代表」ではなく、「投票に行く人の代表」になってしまいます。
低投票率になると、「投票に行く人」の意見が色濃く反映され、
「投票に行かない人」の意見はないがしろにされる傾向があります。

ふつうの市民の投票率が低下するということは、必ず特定候補者に投票する一部団体や組織に属する
特定市民の1票の比重が大きくなるということです。

その結果、一部特定の地域や特定市民の声が政治に強く反映され、
政治とふつうの市民との間に、さらなる歪みを生じさせるのです。

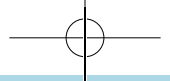
わたしは、しがらみのない政治活動を行ってきました。
しがらみをつくれば、議会で「成田市全体にとっての最も合理的で適切な判断」
ができなくなるからです。

政治は未来を創るものなので、今直ちに問題が生じるものよりも"将来"にそ
の問題が明らかになるものが多いです。

だから、「べつに投票に行かなくても…」となりがちですが、「将来」の主役は
みなさんではなく、いま投票する権利がない子どもたちです。

だから、子どものいる人、これからできる人、そして成田の今と将来をおもんば
かっている人…

必ず投票に行ってください。次代を担う子どもたちのために。



成田の政治は成田市民全員のものです。
さらには、これから生まれ来る「将来の成田市民」のものでもあります。

選みたい政治家がいなくてもいいかもしれません。
それでも、もうちょっとだけ我慢して、投票に行ってください。

諦めないで、成田市の未来のために選挙に行ってください。

わたしは、先にある目標に向かって、今を背伸びすることなく地に足をつけ、
政治に対する信念を伝え続ければ、一緒に考え、一緒に歩いてくれる人が
きっといると信じてここまで走り続けてきました。

市議会議員としての今日までの4期16年間、「変革」が
成田のためになると判断した時は敢然とそれを推進し、
閉塞感のある政治の打破と理不尽な権力に媚びない政治を行ってきました。

成田市は、現市政によって人口減少に歯止めがかからず、
子育て世代がどんどん流出してしまっています。

さらには市財政における借金の急増、空港周辺でのまちづくりの遅れにより、
企業誘致が進まないなど、子育て世帯からも企業からも選ばれないまちになってしまっています。

豊かで美しい成田市をわたしたちの手に取り戻すため、
子育て世帯の人たちが安心して未来を語り、
高齢者の方々が充実した福祉を実感できるまち、
『選ばれるまち、成田新時代!』を皆さんと一緒に描いていくために、
決意をしました。

30年後、まだ見ぬ笑顔のために。
わたしたちの成田のために。

**選ばれるまち
成田新時代!**を
ともに作りましょう!



今の成田って 何が問題なの？

借金だらけ

たくさんのお金で
公共施設を建設し
借金まみれ！
※市場に160億円、
パークゴルフ場に
21億円！？

お金は未来からの前借りで
支払いは未来の子たち…
※将来負担比率
この15年間で33%→109%に
将来負担比率とは？
市の負債総額から積立金などを差し引いた割合を示したものだ。

人口減少

特に子育て世代
がどんどん市外
に流出している
※5年間で
3000人も減少

0歳から4歳
25歳から39歳の
流出が多い！
※子育てしにくい
土地が高い
住む場所が少ない

企業からも選ばれない

印西市にGoogleの
データセンター
※40億円の税金を
見込む

富里市にも
大型商業施設の誘致
が決まったのに、
成田市は…

雨宮しんごがみんなと描く 選ばれるまち 成田新時代

雇用増加
&
税収増

企業

ルールを
変えて
まちづくりを
進める

- ・みんなと話し合って、必要な施設だけを造るよ。
- ・市役所のムダを省いていくよ。
- ・ふくらむ未来への借金を減らしていくよ。
- ・「建物」ではなく「人」に投資をしていくよ。

みんなの「税金」を、みんなと相談して使い方を決めていくんだ。
建物を建てるだけが行政じゃない。
様々な規制を取り払い、遅れている都市づくりを進めることで、
企業を誘致して、みんなの住宅地を作っていくよ。
企業が成田に来てくれると働く場所ができるよね。
そうするとその周りには人が住み、活気が生まれてくるんだ。

有機野菜の
給食提供

農業の
若返り

みんな笑顔だね！

雨宮しんごは
市民からも市外の方からも
国際人からも企業からも自然からも
「選ばれるまち」を目指していくよ！

子育て世代
流入

住宅整備

多文化共生
の社会
※国籍など異なる人々が
文化の違いを認め
対等な関係を
築き共に生きていく事

帰国子女

グローバル企業

仕事が
しやすい
環境づくり

みんな 泣いてるね…

活用されない
荒廃農地
※使われなくなって
しまった農地

たくさんのお金をかけても、意味がなければ誰も使わないよね。
借金が押し付けられたら嫌だし、それじゃあもっと良いところ
に住むのは当然だよ。

そうして成田は…
「選ばれないまち」に
なっているんだ。



※難しい内容ですので大人の方のご協力宜しくお願いいたします。